

ドクター通信

①

前立腺肥大症について

市立総合病院泌尿器科部長 八木橋 勇 治

若いころは、あの小便小僧のように勢いよく弧を描いて放尿していたのに、最近はどうも……というお年寄りは、思いのほか多いのではないのでしょうか。

高齢化社会を迎えて、排尿困難は快適な日常生活を送るうえで大きな障害の一つであり、老人男子の前立腺肥大症はその代表的な疾患で、年々増加の傾向にあります。

前立腺肥大症とは

前立腺は男性特有の臓器で、膀胱のすぐ下に尿道を取り囲むように位置し、成人で栗の実ほど(10〜20グラム)の大きさで、精液の主要成分を分泌すると言われ、大切な役割を果たしています。

前立腺肥大症は、加齢に伴う性ホルモンのアンバランスにより、前立腺が徐々に肥大増殖したもので、二百グラムを超える巨大なものもまれに見られます。この肥大した前立腺により、膀胱の出口、尿道が圧迫されて尿が

出にくくなるのです。

症状は肥大の程度により三期に分けられます。第一期は刺激期、夜間トイレに起きる回数が増えるのが特徴で、尿の出始めまでに時間がかかり、排尿の勢いも弱くなります。第二期は残尿期、膀胱にたまった尿を全部出せなくなり、残尿感が強く、昼夜を問わず頻尿になります。この時期、飲酒や長時間の座位などの後に、尿が出なくなることがあります。第三期は尿閉期で、残尿が多くなり下腹部が膨らんで激しい苦痛を伴い、力んでもほとんど尿が出なくなります。しかし、膀胱に尿がいっぱいになると、自然に尿がにじみ出るようになります。

前立腺肥大症はゆっくり進行するため症状の悪化に気付きにくく、放置していると尿路感染症を起こしやすくなり、腎機能にも悪影響を及ぼして、尿毒症になることもあります。診断は、初診時の触診で簡単にでき、併せて行うレントゲン検査や超音波検査で、前立腺

癌との鑑別も大抵の場合可能です。治療は、初期の症状には薬物を用いますが、二、三期になると手術を必要とします。根治的には開腹手術ですが、最近はその負担が少ない内視鏡的手術が広く行われ、手術も容易にできるようになりました。

日常生活上の注意

前立腺肥大症には、これといった予防法はありませんが、次のような注意が必要です。
一、過度の飲酒、刺激物の摂取や性行為、長時間の座位は下腹部のうっ血をきたすので避ける。
二、尿は我慢しない。
三、適度に体を動かして血行を良くし、体を冷やさない。
四、夕食後はトイレの回数が増えるので、水分摂取を控える。そのほか、総合感胃薬の内服、胃腸の検査前の注射で発症・悪化することもありますので注意することが必要です。

異常に気づいたら

排尿の時、異常に気づいたら年のせいだと思ったり、恥ずかしがりやせずに医師に相談し、適切な処置を受けて、これからの老後をより快適に有意義に過ごしていただきたいと思えます。

まちづくり21世紀計画 シンポジウム'89

～今、我々は何が出来るか～

このシンポジウムは今回で四回目を数え、市と青年会議所中心の開催から、市民各層で組織する「大館まちづくり協議会」の事業の一環として行うことになりました。今回は「今、我々は何が出来るか」を主テーマに、三分科会に分かれて行います。大館の明日を語り合ひましょう。皆さん奮ってご参加ください。

11月23日(木) 13時〜18時
中央公民館
視聴覚ホール・研修室

開会式 13時〜13時30分
大館市まちづくり協議会経過報告ほか

基調講演 13時30分〜15時

演題 『高速交通体系のまちづくり』

講師 萱嶋 源一郎氏
(日本空港)

分科会 15時〜17時

第1分科会
テーマ 『県北空港誘致について』

第2分科会
テーマ 『観光大館になりえるか』

第3分科会
テーマ 『我が街の近代化』

総括 17時〜18時

分科会報告ほか

閉会式

閉会式

都市大館をめぐって



昨年のシンポジウム